

シンポポだより

vol.45
2023 夏号

—— 友の会会員の皆さまと記念館を結ぶ会報誌 ——



すずき出版発行「心のうたかれんだあ」(平成7年版)より 詩／坂村真民「つゆくさの花」 画／海野阿育

坂村家のアルバム

vol.15

自由を求めた代用教員時代

ぼくは帽子をかぶらない(55歳)

ぼくは帽子をかぶらない

大木とおなじく

ぼくは上から

押さえつけられるのが

いやだからである

かつてある県で

代用教員をしていたことがあるが

そこで制服制帽をつくった

全県下の教員が一せいに

海軍士官のようになつた

そのときあの帽子を

頭にのせなかつたのは

ぼく一人だつた

(後略)

「詩国第21号」(昭和39年3月)



小天小学校昭和9年3月卒業写真(写真の中心が真民)

今号は、天水町小天小学校の代用教員時代について、少し寄り道的なお話をしたいと考えています。

掲載詩には、この地で2年間(昭和7年4月〜昭和9年3月)を過ごし、受け持っていた6年

生を卒業させると、朝鮮に渡ってゆく決心をした大きな要因のひとつが詠まれています。究極の自由人であると自らを語っている父(真民)にとって、それは生きてゆく姿勢そのものでした。そしてこの帽子をかぶらない話は、こう続くことが多かったのです。

「ぼくの弟は玉名中学校(旧制)から熊本第五高等学校に進み、ちょっと話題になった。よく『おまえがああ坂村か』と問われ『それは弟ですよ』と答えたもんですよ。弟は、その間一度も軍事教練に出なかった」と。当時のことですから、教官からどんなに強く叱責を受けたことでしょうか。子供達に、それぞれの道を自由に歩ませた夕子お母さんの子供への信頼の強さが伝わってきますね。

写真は、もう一人の弟さんの奥さまから「小天小学校出身のWさんが持って来られました」と熊本からお送りいただいたものです。少し見にくいのですが、その一部を拡大して載せました。さて、始めに寄り道と書きましたのは、こういう事です。

皆さんは、俳優の笠智衆(故人)をご存知でしょうか。笠さんは、真民と同じ玉名中学校の

表紙の詩



つゆくさの花	つゆくさの	むらさきの	あさつゆの	すかしい道	東の間の	露の世を	清く生きよと	告げている	つゆくさの花
--------	-------	-------	-------	-------	------	------	--------	-------	--------

つゆくさの花 (71歳)

つゆくさの
むらさきの
あさつゆの
すかしい道
東の間の
露の世を
清く生きよと
告げている
つゆくさの花

「全詩集3巻」315ページ
「詩国19巻8月」昭和55年8月
「花」輪の宇宙」66ページ

この詩は、真民が71歳の時の詩です。
真民が住んでいた、タンポポ堂の小さな庭には、つゆくさが一杯咲いていました。
現在は、坂村真民記念館の前庭に、6月から9月にかけて所狭しといっぱい咲いています。
朝露を受けて咲き屋前にはしぼんでしまう、そのはかなさに、真民は自分の人生を重ね、この花を本当に愛しました。
特に、朝露に濡れて、露を葉っぱや花に湛えている姿は、美しいというより、清純さと尊さを感じることができます。

2、3年先輩にあたります。在学中は通う道が違い相知ることはなかったのですが、代用教員になっていたとき毎日この方の生家のお寺の下道を自転車で通いました。お寺の近くに住むKさんとお酒を飲めばいつも笠さんの話をしたそうです。

後年、笠さんが大部屋時代を経て、味のある名俳優として活躍されるようになって、父はよく映画館を訪れていたのではないかと。私は、映画「秋刀魚の味」を父と二人で観た思い出があります。NHKテレビで笠智衆出演朝のドラマ「たまゆら」を嬉しそうに見ていた姿、この頃

から手紙を差し上げ、お返事が来ていたように記憶しています。父が書いた「この人の風貌も実にいいが、アクセントというよりも、ふるさとの山や川のしみこんでいるような、声の風味が、実に懐かしく…」(詩国後記)という文章から父の感慨がよく分かります。付け加えるならば、後になって、笠智衆さんの奥さまも、真民の妻も、くも膜下出血で倒れたことで同じ悲しみを持つという繋がりもあつたように感じます。

もう一つの寄り道。小学校のあるこの地は小天温泉として有名で、夏目漱石が明治30年の大晦日から数日間滞在しています。その8年後、東

京で小説「草枕」を発表しますが、舞台となったのが小天温泉であり、そのときの体験がもとになつてゐるとのこと。漱石の宿は、当時の前田山子(衆議院議員・自由民権運動家)の別邸でした。真民の代用教員時代は昭和に入っていますが、小学校の生徒の中に関係者の子弟がいて、漱石が泊った屋敷、部屋の中までも見せてくれたそうです。(現在は漱石館として一般公開)

思い出深い2年間を過ごし朝鮮に骨を埋めるつもりで海を渡った真民、次号から新天地での話が展開します。

文／西澤真美子

“先生”の詩がある幸せな毎日に感謝

坂村真民記念館 ボランティアガイド 森永 弘子さん



宇和島東高校時代に真民さんから国語を習っていたという森永弘子さん。キラキラした笑顔で来館者に真民さんの詩の魅力を伝える森永さんからは、「先生が大好き!」という気持ちが溢れている。

◆「先生」と呼ばせていただきます

坂村真民記念館でボランティアガイドを務めるようになって10年、来館者の方に最初に必ずお断りすることがあります。

「皆様はぜひ『真民さん』とお呼びください。それが先生のご希望です。からでも、私は宇和島東高校で坂村先生の生徒だったので、『先生』と呼ばせていただきますね」と。少し自慢しているみたいですね。でも、実は私は高校時代、先生が詩を書いておられる事を、全く知らなかったのです。

長男が中学3年、次男が小学6年生の時、夫の転勤に伴い、一家で松山から伊予三島へ引っ越しました。「受験生を転校させる人などいませんよ」と先生には言われましたが、私には思春期を迎える息子たちを1人で育てる自信がなかったので、家族一緒に生活を選びました。

そこで地域の読書サークルに入り、そして先生の詩に出会ったのです。「私、この先生に習ってましたー先生が詩人だったなんて」と驚く私に、皆さん呆れるやら羨ましがらるやら。これは、本当に恥ずかしいことだと思っています。

◆大好きな先生の詩分かち合いたい

先生の詩はとても優しいのです。

「尊いのは足の裏である」という詩では、脚光を浴びている人ではなく、人に知られずとも黙々と働いている人に心を寄せておられます。また、ご家族を大切にされていて、詩集「家族の絆」に込められた先生の思いには、多くの来館者の方が感動されますね。

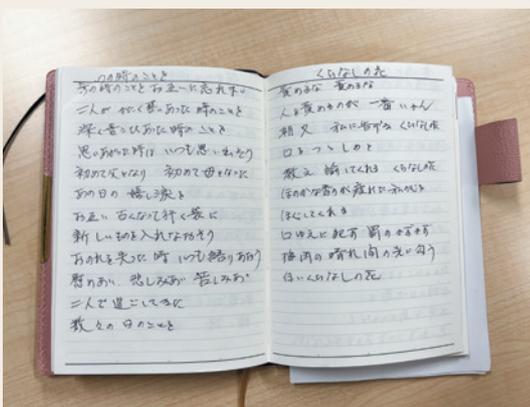
年代によっても好きな詩は違ってきます。若い頃は「本気」を読むと力が湧いてきました。「鈍刀を磨く」も好きでした。この詩は男性も好きな方が多いようです。今は四国がテーマの「聖なる島」や母を思う「昼の月」、終わりを美しくの「落花」もいいですね。

日常生活のなかで、すぐ先生の詩が頭に浮かんでくるのですよ。歌を聴いても「きつ」とこの方は真民先生の詩がお好きなのね」とか。

夫が定年になり松山に居を構え、念館の設立に尽力された元砥部町町長の中村剛志さんと友達なのです。中村さんには素敵な場所を作ってくれたと日々感謝しています。

ガイドの仕事は、人との出会いがあり、素敵で最高。今は、企画展「一遍さんと真民さん」が開かれています。事前に館長さんから一遍上人について学びました。覚えることが多いので、頭も若く保たれるようで嬉しいのです。何より、大好きな先生の詩の話をする事ができて幸せです。

今は家族全員、好きな事をして楽しく暮らしています。息子たちには、転校で友達と離れ、悲しい思いをさせたことと申し訳なく思っています。今の私があるのは、先生の詩のおかげ。先生との縁を結んでくれた伊予三島がお母さんの原点なのだと、彼らも認めてくれているようです。



気に入った詩はメモ帳に書き留めている

真民詩を学びながら ボランティアガイドをして 豊かな心の世界をみませんか



令和5年度坂村真民記念館ボランティアガイド養成講座・募集要項

受講期間 令和5年7月15日(土)～9月2日(土) [全7回]

受講場所 坂村真民記念館・会議室

募集受付 希望者は、電話かメールで申し込みください。
メールの方は、氏名、住所、年齢、性別、電話番号を記載してお送りください。

〈メール〉info@shinmin-museum.jp
〈電話〉089-969-3643

受講定員 25名程度(先着順)

募集期間 令和5年5月16日(火)～6月30日(金)

受講決定通知 受講決定者には、記念館よりお知らせします。

問い合わせ先 089-969-3643
(坂村真民記念館)

修了者には修了証書を授与し、令和5年10月から1日4時間(午前の部9:00～13:00または午後の部13:00～17:00)月に2～3回程度ガイドとして活動していただきます。

現在25名(男性11名、女性14名)の方が活動されています。
(30代から80代まで幅広い方々がいらっしゃいます。)

最初はベテランのガイドさんと一緒に行き、慣れてから1～2人でガイドします。講座を修了し、現在ボランティアガイドとして活躍されている方々からは、来館者の方から質問を受け、館長に聞いたり、自分で調べていく中で、自分が知らなかった真民さんのことが良く分るようになった。来館者の方が熱心なファンで、色々教えてもらうことがある。来館者の方と話すことにより、自分自身が成長することに気付いた。等の声があります。



講座概要・日程表

回数	日時	講座内容	講師
1	7月15日(土) 14:00～16:00	開講式、坂村真民の人生と詩(ビデオ鑑賞)	坂村真民記念館館長 西澤 孝一 西澤 真美子(真民三女)
2	7月22日(土) 14:00～16:00	坂村真民の生涯	
3	7月29日(土) 14:00～16:00	真民詩の魅力とその背景(1) 三瓶・吉田時代	
4	8月 5日(土) 14:00～16:00	真民詩の魅力とその背景(2) 宇和島時代	
5	8月19日(土) 14:00～16:00	真民詩の魅力とその背景(3) 砥部時代	
6	8月26日(土) 14:00～16:00	記念館の特色と展示作品の解説(講義)	
7	9月 2日(土) 14:00～16:00	記念館の特色と展示作品の解説(実習)、修了式	

「あとから来る者のために ～真民から若者たちへのメッセージ～」

開催期間 2023年7月8日(土)～2023年10月1日(日)

月曜日休館(祝日の場合は翌日)

坂村真民が若い人たちにいつも言っていた(一番伝えたかった)ことは、「どんな小さい花でもいい、自分の花を咲かせよう」ということでした。誰かの真似をするのではなく、自分で苦勞して考え、自分独自の花を咲かせてほしいと願っていました。

坂村真民の生き方は、「人間としてどう生きるか」を常に自分自身に厳しく問いかけ、その答えとして詩を書き、少しでもいい詩を書き続けることでした。

人生の先輩として、苦しい事、つらい事、悲しい事

をいっぱい経験してきた真民の詩は、若い人たちがその体験を共有することによって、「一つの道しるべ」としての役割を果たしていると思います。

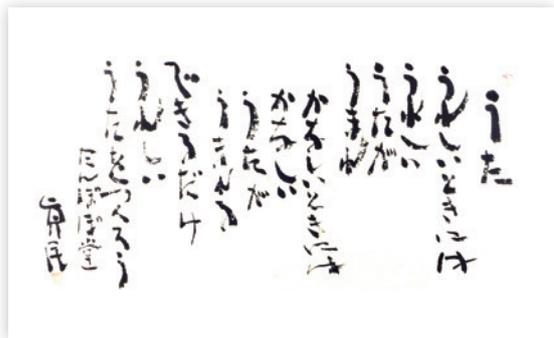
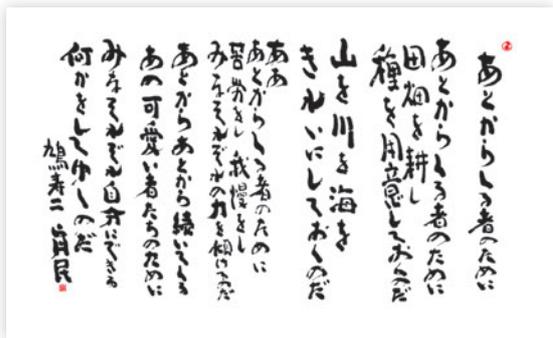
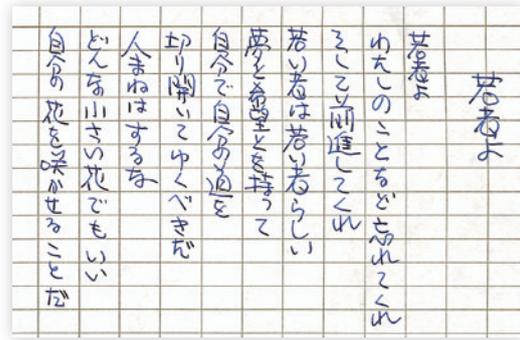
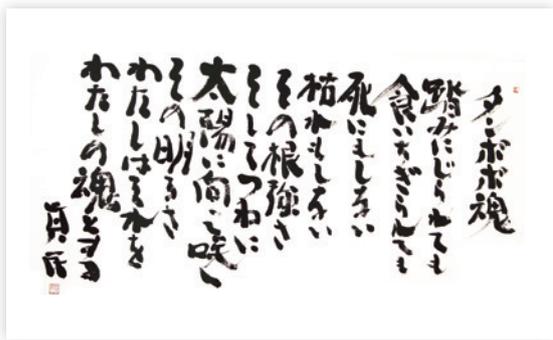
今回の展示作品は、こうした真民詩の中から、若い人たちに是非読んでもらいたい詩を中心に展示しています。

記念館に来て、これから生きてゆくときに、困難を乗り越え、生きる希望を得るための「心の支えとなる詩」を見つけて帰ってください。

第2展示作品

- ① 若者よ(全文)
- ② たんぽぽ魂(全文)
- ③ うた(全文)
- ④ かなしみはいつも(全文)
- ⑤ 時間をかけて(全文)
- ⑥ 鈍刀を磨く(全文)
- ⑦ 闇と苦(全文)
- ⑧ 六魚庵箴言(全文)
- ⑨ 飯 台(全文)
- ⑩ あとから来る者のために(全文)

第1展示室と中部屋では、これまで来館された若い人たちが「私の好きな真民詩」として挙げていた詩を中心に、代表的な真民詩を展示しています。第2展示室では、「館長が若い人たちに薦めする真民詩」を、小学生、中学生、高校生にそれぞれ向けて選び18点展示しています。



坂村真民記念館を応援しています



『木は氣なり』

百年の木には百年の氣が宿り
千年の木には千年の氣が宿る

鳩寿四 真民詩

南木曾木材産業株式会社

〒399-5302 長野県木曾郡南木曾町吾妻1187 代表取締役 柴原 薫

TEL 0264-57-4000 FAX 0264-57-2006 <http://www.nagiso.co.jp> メール kao@nagiso.co.jp

砥部の地で、医療、看護、介護の三位一体を実現する砥部病院



介護付有料老人ホーム
To-be

全78居室/20㎡~24㎡(1F&2F)



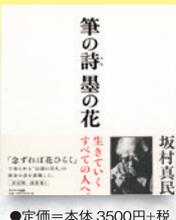
住宅型有料老人ホーム
モンレーヴ砥部

全18居室/40㎡~90㎡(3F)

伊予郡砥部町麻生51-1(砥部病院西隣) TEL.089-969-0085 砥部病院ケアサービス株式会社

サンマーク出版 坂村真民の本

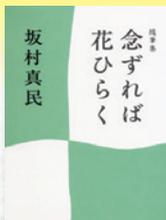
詩墨集
筆の詩墨の花



●定価=本体 3500円+税

坂村真民記念館
所蔵の作品を満載!

随筆集
念ずれば花ひらく



●定価=本体 1800円+税

初めての
随筆集を復刻!

念ずれば花ひらく



10万部突破の
超ロングセラー!

いま届けたい、生き方の道しるべ



詩集 ●定価=本体各1000円+税



詩集 二度とない人生だから

サンマーク出版

〒169-0075 東京都新宿区高田馬場 2-16-11
TEL 03 (5272) 3166 FAX 03 (5272) 3167
<http://www.sunmark.co.jp>

広告募集中

「タンポポだより」に広告を出してくださる
企業・団体等を募集しています。

[広告料]

1枠(タテ60mm×ヨコ170mm) …… 年間10万円

- 年間発行部数/2,000部(年4回発行)
- 送付先/友の会会員、県内社会教育施設、県内旅行・観光業者等その他、記念館の来館者に配布

「タンポポだより」の発行費用は、この広告料で賄っています。それによって、友の会の会員の皆様からの会費は、タンポポだよりの送付料や記念館の活動経費に充てることが出来ます。記念館の活動を充実させるためにも、広告料収入が必要不可欠です。どうぞ、このような趣旨をご理解くださり、広告掲載へのご協力をお願いします。



致知出版社 坂村真民シリーズ



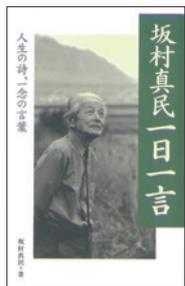
全424頁、
豪華
座右版

生涯1万篇以上といわれる
膨大な詩作の中から366の名詩を精選。
長年、真民詩に魅せられ人生を歩む道標としてきた
『致知』編集長が渾身の思いで編纂に当たりました。
心が弱った時、悲しみに直面した時、
ぜひ本書を紐解いていただき、
心の糧となる詩に出逢っていただければと願っています。

坂村真民一日一詩

坂村真民=著／藤尾秀昭=編
定価=本体2,000円+税
四六判上製

人生で口ずさみたくなる
言葉が見つかる



坂村真民一日一言
坂村真民=著
定価=本体1,143円+税
新書判

円覚寺派管長が選んだ
真民詩100選



坂村真民詩集百選
坂村真民=著／横田南嶺=選
定価=本体1,300円+税
新書判

真民氏が自らを励まし、
勇気づけるために綴った87篇の詩



坂村真民箴言詩集 天を仰いで
坂村真民=著／西澤孝一=編
定価=本体1,300円+税
四六判並製

月刊『致知』に掲載された
幻のインタビュー集



詩人の颯声を聴く
坂村真民=著／藤尾秀昭=聞き手
定価=本体1,300円+税
B6変型判上製

致知出版社

〒150-0001 東京都渋谷区神宮前4-24-9
TEL.03-3796-2118 FAX.03-3796-2109

オンラインショップでも
ご購入できます!

致知オンライン 検索

坂村真民記念館友の会 会員募集中

坂村真民記念館友の会は、会員の皆様と記念館との交流を図り、記念館を共に支え、育てていくことを目的とした会です。入会された方には会報と、真民グッズなどの記念品を贈呈します。

パスポート会員 年会費2000円	特典 会員証で入館無料1人 ほか
一般会員 年会費5000円	特典 会員証で入館無料1人 ほか
特別会員 年会費10,000円	特典 会員証で入館無料2人 ほか
法人会員 年会費10,000円	特典 会員証で入館無料2人、 観覧券10枚贈呈 ほか

詳しくはホームページをご覧ください [坂村真民記念館 友の会](#)

〈編集後記〉

2ページ目の写真を見て生前の真民をご存知の方は、アラツと思われたのではないのでしょうか。「こんなに丸い顔の真民さん!」と。夕子お母さんが食の細い息子に「これ食べ、あれ食べ」と好物の蒸かしパンや酒まんじゅうを作っていたのでしょう。ありがたいですね。(真美子)

タンポポだより vol.45 夏号

令和5年6月1日発行
発行元／坂村真民記念館友の会事務局
〒791-2132 伊予郡砥部町大南705 坂村真民記念館内
TEL089-969-3643 FAX089-969-3644

〔坂村真民記念館〕
開館時間／9～17時(入館は16時30分まで)
休館日／月曜(月曜が祝日の場合は翌日)、12月29日～1月1日
入館料／65歳以上300円、一般400円、高校生・大学生300円、
小・中学生200円 ※15人以上の団体は割引あり